

学社連携・融合事業の例

おおだてマナビィ

サポーター派遣事業

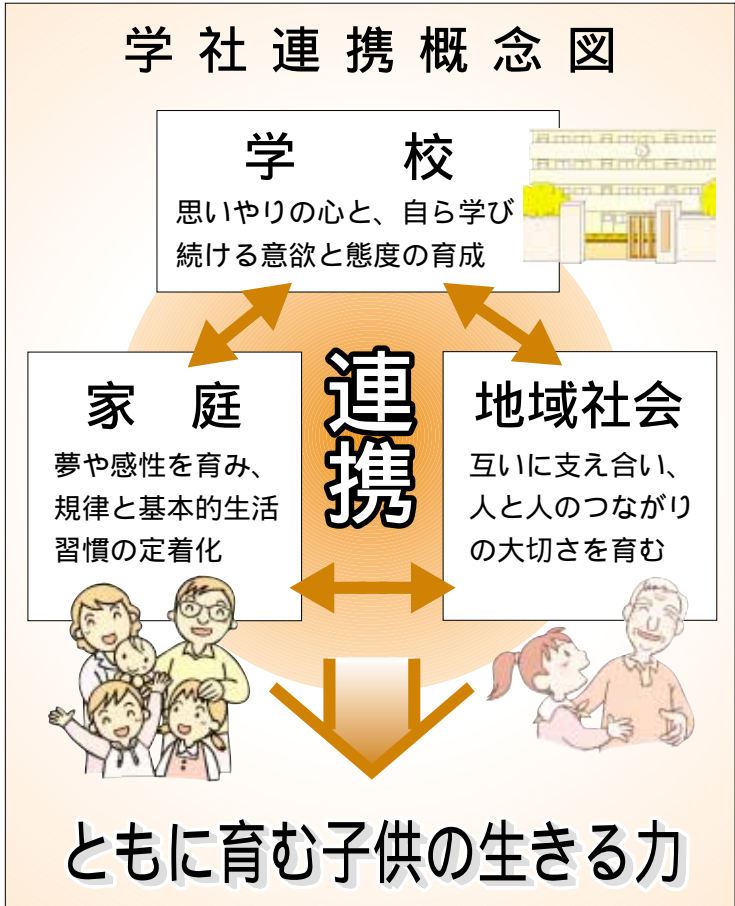
サポーターと呼ばれる地域の方々が、その特技を生かして子供たちと接し、学校の授業や活動の支援をするものです。

おおだてマナビィ達人講座

特技などを持ったかたが講師となって、放課後や土・日曜日に子供たちへその特技などを教えます。

子どもまちづくり事業（計画中）

製品の製造・生産、店舗の開設、宣伝、販売などの一連の作業を子供たちにさせ、社会の仕組みを体験させるものです。



社会教育課・柴田補佐(左)と佐藤社会教育主事

「なじみの薄いヒップホップだけど、きつと子供たちはこのリズムが好きはず」そう思って菅原さんは引き受けたそうですが、子供だけではなくお母さんも一緒に練習するほど。取材に伺った日は、3カ月間の講座終了の閉講式の日で、たくさんの子供たちが皆勤賞のバッジをもらっていました。楽しそうに、生き生きと踊り終えた子供たちを見ながら「子供たちは磨けば光る。継続は力なり」とうれしそうに話してくださいました。

華麗なステップ

まずは、ヒップホップで「ゴー！」の取材に行きました。講師は菅原恵子さん（東台4区）。開催場所はサンクレア大館（有浦）です。

数ある講座の中から、取材先に選んだものは「ヒップホップでゴー！」と「日本舞踊講座」です。実際に事業がどのように行われているのか、参加しているかたはどう思っているのかを取材してみました。この達人講座は、今年度大館市内の施設を柔軟に活用して多様な多彩な32講座が開設されています。市内の487人の児童が登録されていて、10月までに3講座が閉講式を迎えました。

おおだてマナビィ達人講座

おおだて

また、佐々木翔矢くん（釈迦内小2年生）は「みんなの前での発表は緊張したけど、うまくできてうれしかった」と皆勤賞ももらい満足げな顔をしていました。お母さんからは「場所が遠かったのが難点。土・日に開催する講座もあるけれど、参加しにくい」という意見も。でも「毎年講座は続けて欲しい」と話してくれました。

参加していた佐藤航平くん（城南小2年生）は「もう終わってしまふのは残念。お母さんでもできないステップができてうれしかった。もうちょっと友達ができれば良かった」と話してくれました。良かったこと、そして、反省点まで出てきたということは、良い経験ができたということでしょう。

本多絵未里さん（上川沿小3年生）は「家ではもちろん、買い物に行ったお店でも踊ってしまったほど。生活に染み込んでいたようです。他にやってみたい講座を尋ね